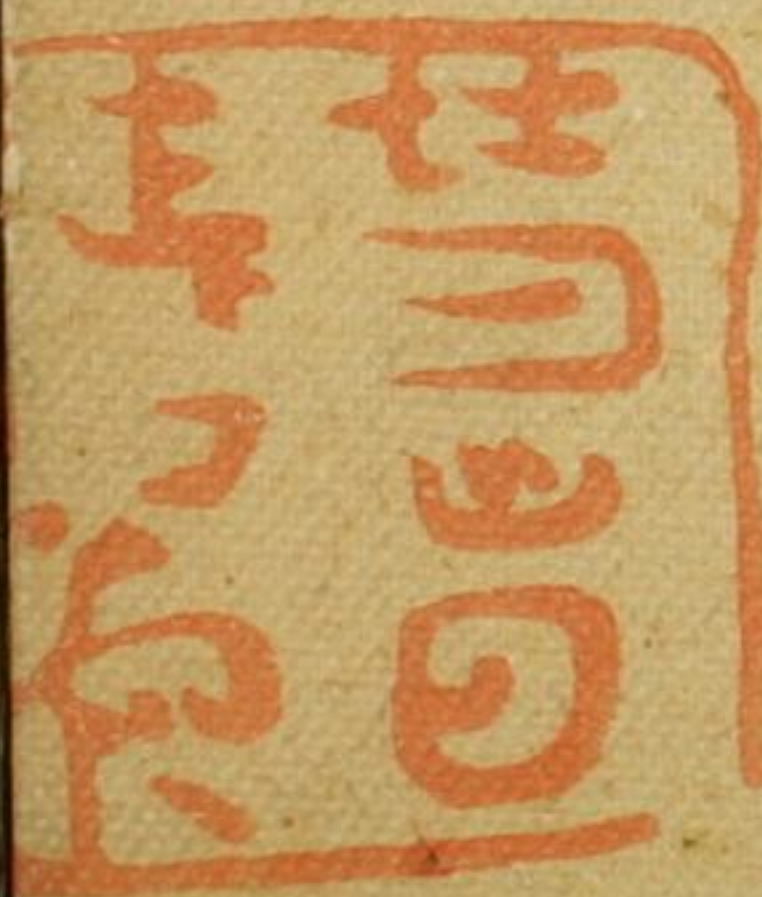
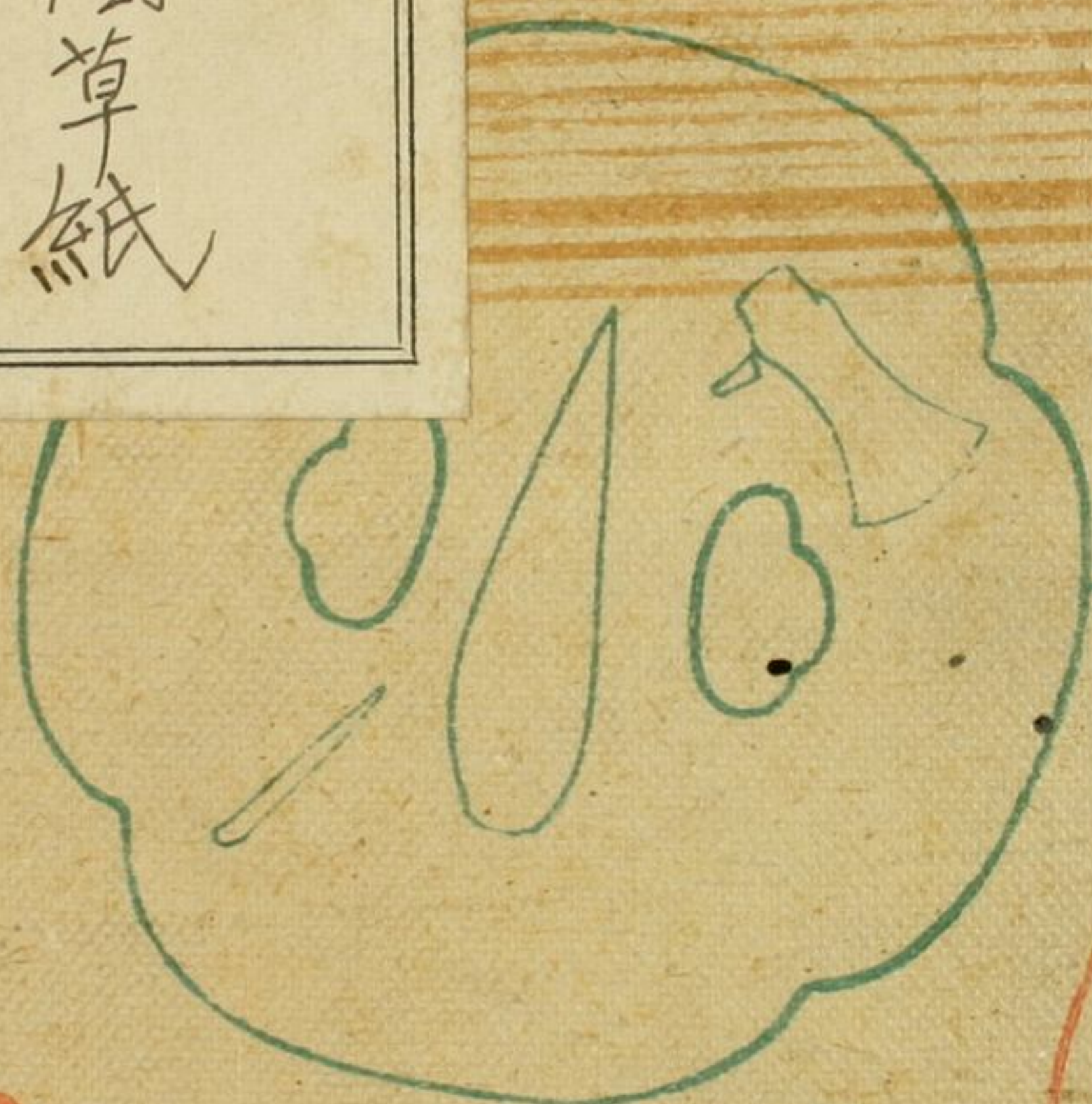


山亭秋信作
張川國獨画

綠柳五ヶ國草紙

三笠篇上下
四笠篇上下





御五國書

A 38 /

48-7981

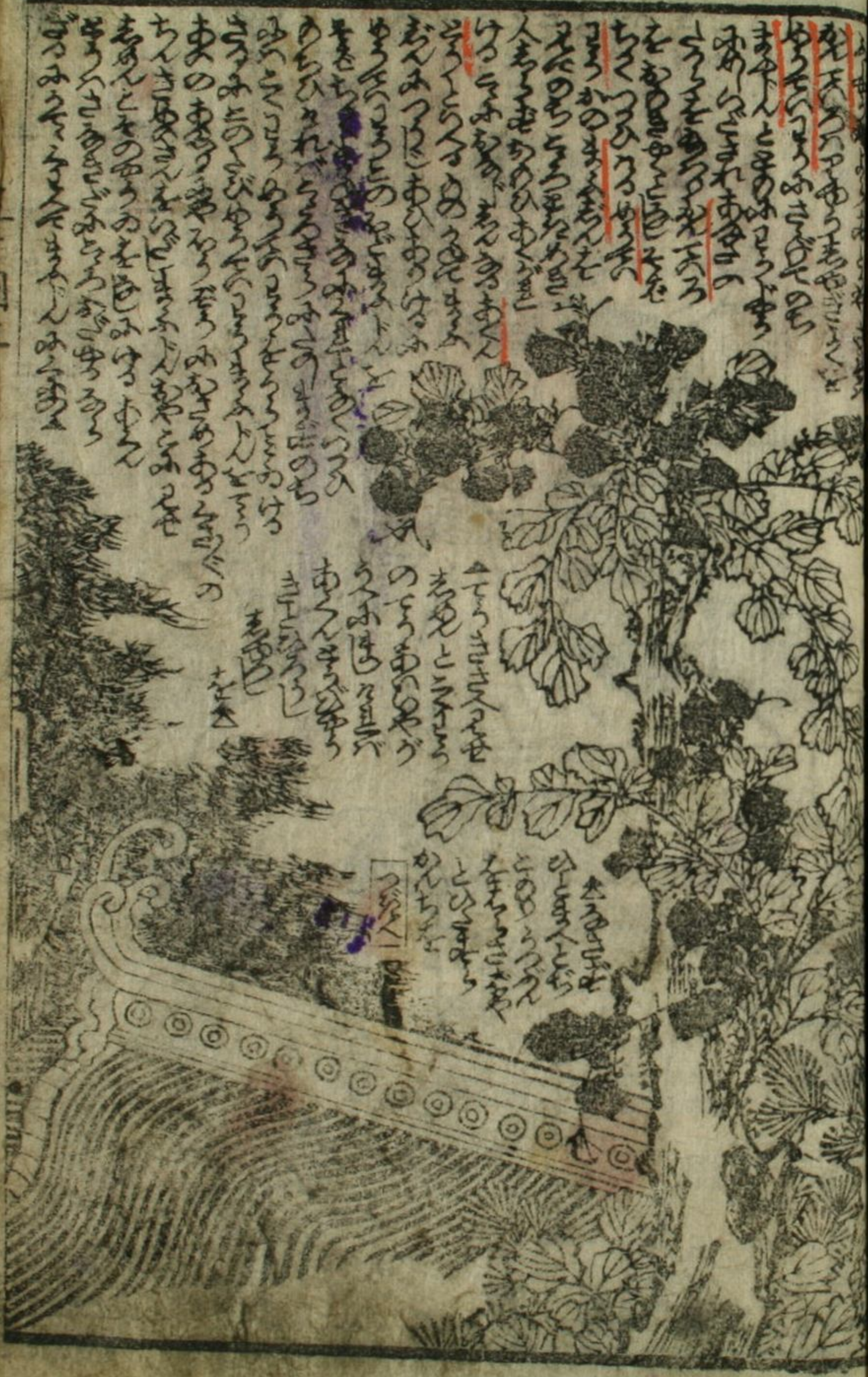




四
十
四
十



倭臣
ア
ト
ク



此の園は
 昔より
 名高く
 花も
 実も
 豊かに
 結ぶ
 所なり
 といふ
 也

此の園は
 昔より
 名高く
 花も
 実も
 豊かに
 結ぶ
 所なり
 といふ
 也

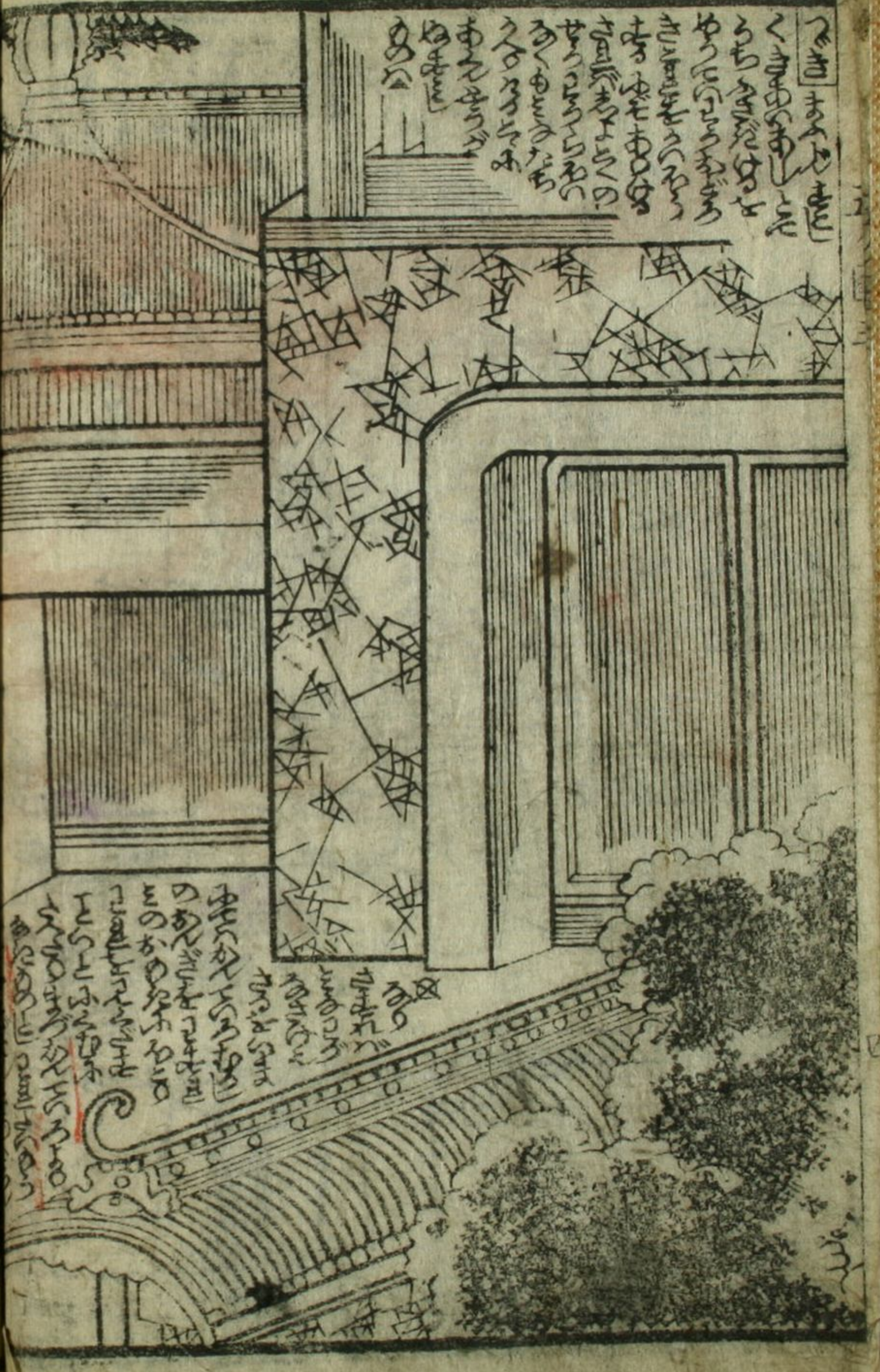
此の園は
 昔より
 名高く
 花も
 実も
 豊かに
 結ぶ
 所なり
 といふ
 也





Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese or Japanese calligraphy, surrounding the top and right sides of the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese or Japanese calligraphy, surrounding the bottom and left sides of the illustration.



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese or Japanese calligraphy, surrounding the top and right sides of the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese or Japanese calligraphy, surrounding the bottom and left sides of the illustration.

Handwritten text in vertical columns, likely a list of names or titles, possibly related to the figures in the illustration.

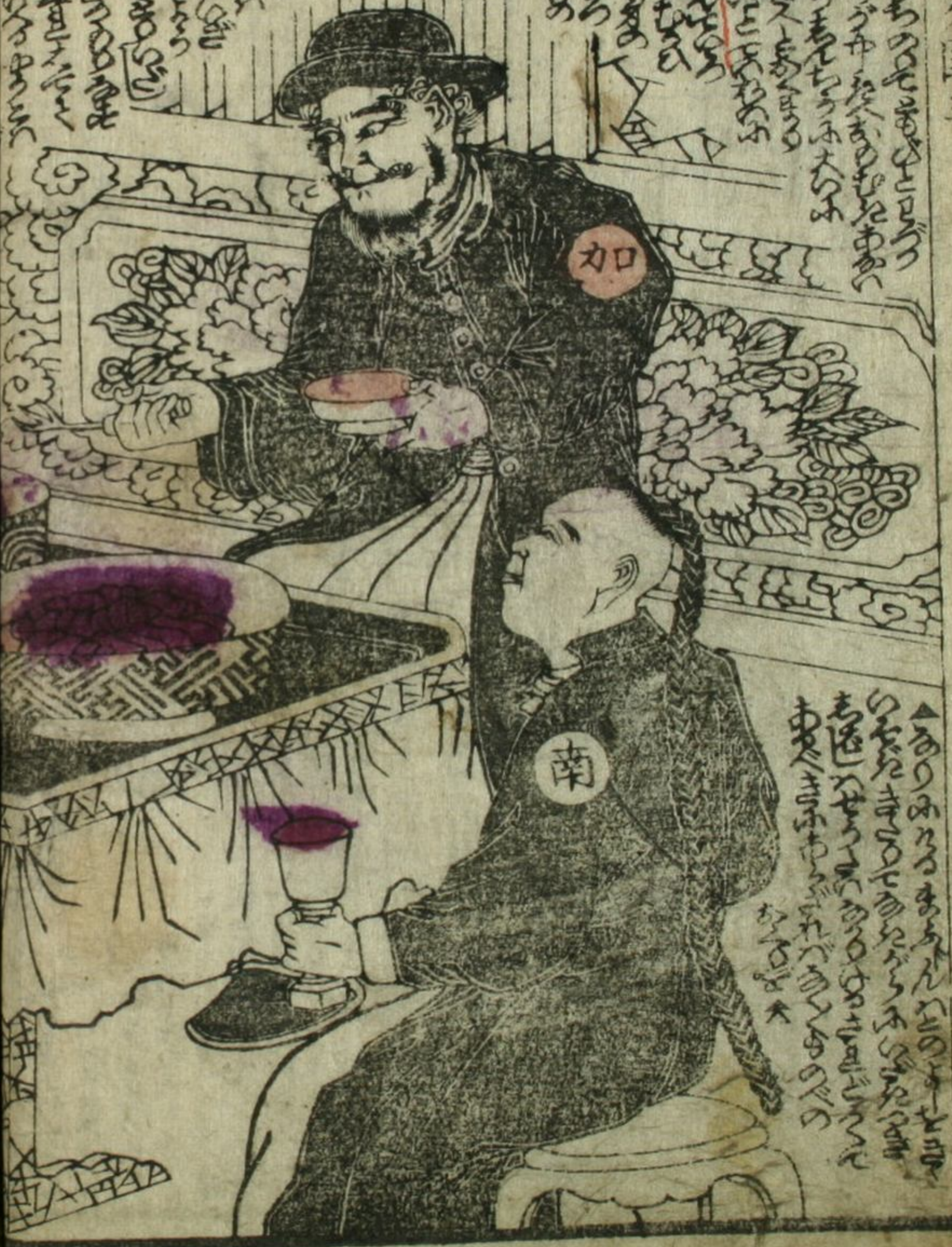


Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, continuing the list or commentary.

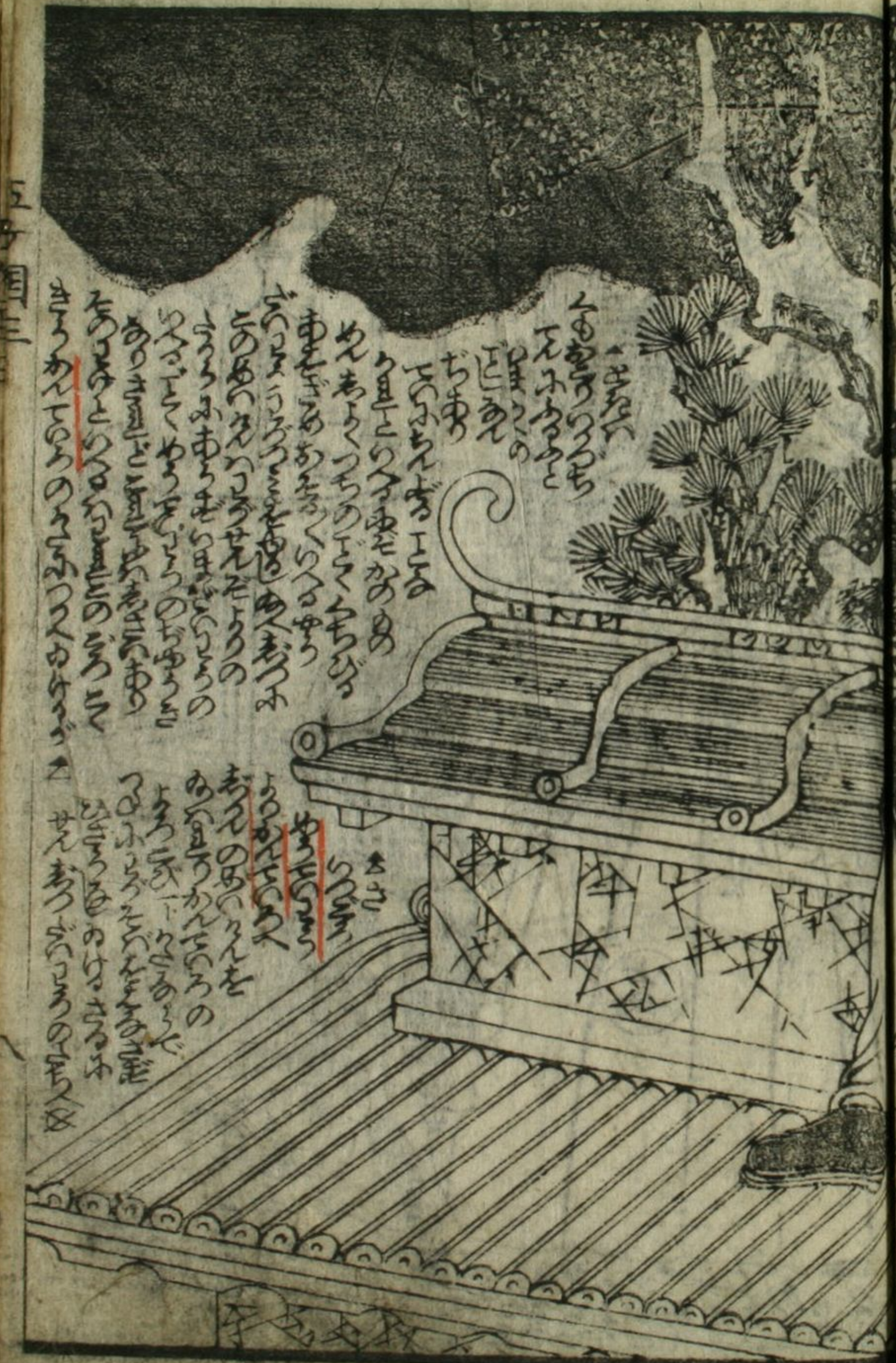
五ノ四三

四ノ一

Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, continuing the list or commentary.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the right page, continuing the list or commentary.



Handwritten text in Japanese characters, arranged in vertical columns. The text is densely packed and covers a significant portion of the left page.

五十四



Handwritten text in Japanese characters, arranged in vertical columns. The text is densely packed and covers a significant portion of the right page.

五十三

Handwritten text in Japanese Kuzushiji script, written vertically on the left page. The text is arranged in several columns, with some characters highlighted in red ink. The script appears to be a form of historical Japanese calligraphy, possibly related to a story or a play.



Handwritten text in Japanese Kuzushiji script, written vertically at the bottom of the right page. The text is arranged in several columns, with some characters highlighted in red ink. This text appears to be a continuation of the narrative or dialogue from the illustration above.

1. The first part of the
 book is a collection of
 the most famous
 of the Chinese
 in the world
 and the most
 famous of the
 Chinese in the
 world.



The second part of the
 book is a collection of
 the most famous
 of the Chinese
 in the world
 and the most
 famous of the
 Chinese in the
 world.

The third part of the
 book is a collection of
 the most famous
 of the Chinese
 in the world
 and the most
 famous of the
 Chinese in the
 world.



The fourth part of the
 book is a collection of
 the most famous
 of the Chinese
 in the world
 and the most
 famous of the
 Chinese in the
 world.

秋信譯



阿
 上の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ

岡



上の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ

阿の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ
 阿の巻より
 下の巻へ

五十四



龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は

龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は



龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は

龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は
 龍の
 鱗は



龍の首は雲を穿ちて天に昇りて
龍の尾は雲を穿ちて地に降りて

龍の首は雲を穿ちて天に昇りて
龍の尾は雲を穿ちて地に降りて
龍の目は雲を穿ちて天に昇りて
龍の鼻は雲を穿ちて天に昇りて

龍の首は雲を穿ちて天に昇りて
龍の尾は雲を穿ちて地に降りて
龍の目は雲を穿ちて天に昇りて
龍の鼻は雲を穿ちて天に昇りて
龍の舌は雲を穿ちて天に昇りて



龍の首は雲を穿ちて天に昇りて
龍の尾は雲を穿ちて地に降りて
龍の目は雲を穿ちて天に昇りて
龍の鼻は雲を穿ちて天に昇りて

龍の首は雲を穿ちて天に昇りて
龍の尾は雲を穿ちて地に降りて
龍の目は雲を穿ちて天に昇りて
龍の鼻は雲を穿ちて天に昇りて

此の山に名僧の住居あり
 のとありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり



あむり
 亞墨利加の
 波龍仁の
 遠景

あむり
 亞墨利加の
 波龍仁の
 遠景
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり

ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり
 ありては名僧の住居あり

ふたりのこゝろを
おぼへしむるに
よちよちとわたり
ていふことありしに
めいめいといふに
けいれいといふに
をいふに
ていふに
二人ともいふに
おぼへしむるに
ふたりのこゝろを
おぼへしむるに
よちよちとわたり
ていふことありしに
めいめいといふに
けいれいといふに
をいふに
ていふに
二人ともいふに
おぼへしむるに



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

ふたりのこゝろを
おぼへしむるに
よちよちとわたり
ていふことありしに
めいめいといふに
けいれいといふに
をいふに
ていふに
二人ともいふに
おぼへしむるに



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



山亭秋信作
歌川國綱画



山亭秋信作
歌川國綱画





緑柳五ヶ圖草紙四編自序

孝乃真似し孝を偽し悪は真似し悪とある人有り
學者の真似し學者とある千度むづき初めあつ
ら鶴の真似をまる鳥乃女先及びぬ鯉の滌水岳亭
兄弟濁り小漆り井の内は鮎大海を綴合みする五ヶ圖
草紙問屋が四編の催促よ。札のう人小取ちる此正本
乃植字板假名よ述ある異國の院本引上簾乃中
うしして廻らぬ舌乃口上よりせ

文久と云年

忍川席亭小

弥生廿日

山亭秋信記



五ヶ圖



古尾豆字
喜ハレリヨ

渡海
アミントウ



いん婦
トウリヨ



▲あはれ
あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ

あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ



あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ

あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ
あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

るきさちのちちふ
んおちあーくま
まさるいのちを
なまろこあが
のちんをわめり
とせせのあより
まののまもこ
みさへめひさ



いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは



いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは

つぎにまたいの中を見れば、おたけのふりやう
くさくさとした中を、まじりまじりのうらやまの
ふたを、おたけのふりやうのふりやうを、まじり
まじりのおたけのふりやうのふりやうを、まじり
まじりのふりやうのふりやうを、まじりまじりの
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり



おたけのふりやうのふりやうを、まじりまじりの
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり

おたけのふりやうのふりやうを、まじりまじりの
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり



おたけのふりやうのふりやうを、まじりまじりの
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり
まじりまじりのふりやうのふりやうを、まじり

新阿蘭陀
 ウイモウの湊
 みく渡船を
 見る圖
 遠景ハホウ
 スランド



五ノ四ノ

Handwritten text in the top left corner of the left page, likely a title or introductory text.

Handwritten text in the top right corner of the left page, above the main illustration.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page.

Handwritten text in the bottom right corner of the left page.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page.

Vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or chapter indicator.

010190509147



東山
隱居

司馬
印